

協議会ニュース 46号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1993. 7



海上の林道

瀬戸の海上（かいしょ）部落から北500メートルのところにある海上池（砂防えん堤でせき止められてできた池）に流れ込む小川の川沿いの風景をスケッチしてみました。

6月12日と6月20日の両日、北岡さんがつくられた海上の森ハイキングコースの案内図を頼りに訪ねてみました。

（次ページの本文に続く）

★ 表 紙 の 絵 ★

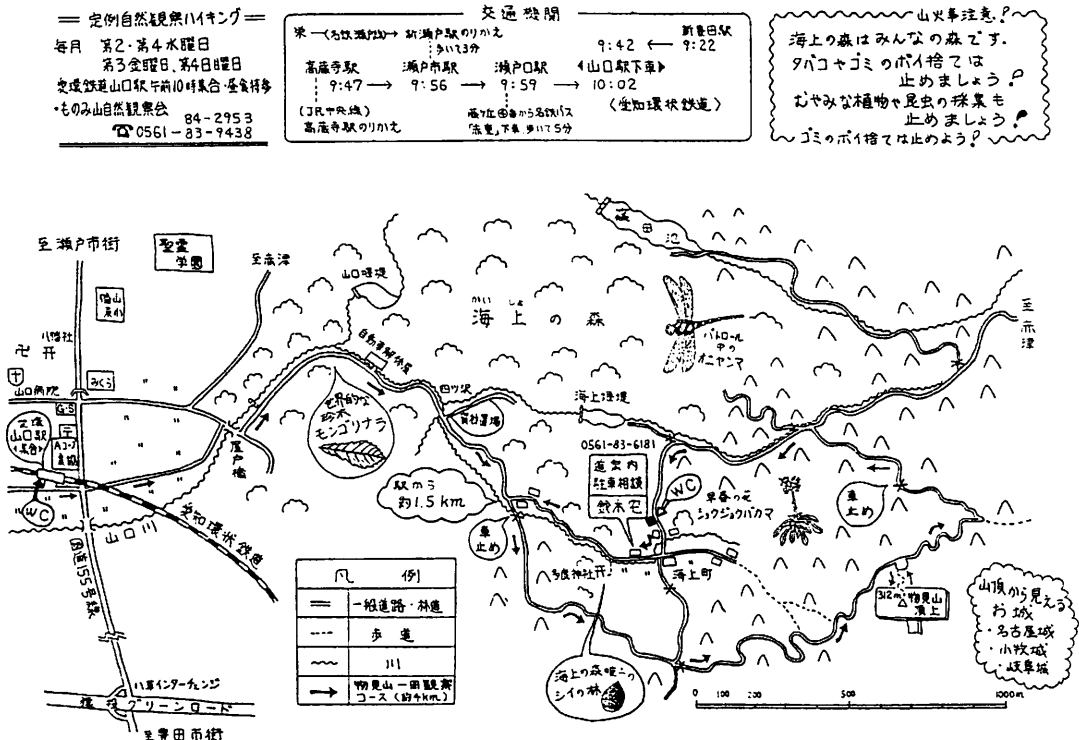
海上周辺は物見山も含めて比較的スギやヒノキの植林地が多い地域ですが、ハイキングコース（林道）に沿って歩いてみると、しっとりと落ちついた自然の趣を味わうことができました。

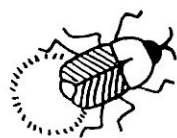
瀬戸の中心地からわずか5キロメートルほどのところに、こんな静かな自然があるとは信じられないほどでした。昔はハゲ山だったようですが、今ではスギ・ヒノキも40～50年生のものも見られ、植林地の間にはコナラ・アベマキ・ヤマザクラなどの広葉樹林も介在していて、緑のコントラストの心地よい美しさを楽しめます。

このあたり一帯は猿投山から続く花崗岩地帯で、小川の川底の砂は明るいいうす茶色をしていて、澄みきった水がその上を豊かに流れ、川辺の草木もほどよく茂り、夜にはきっと、ゲンジボタルの飛び交う様が見られるのではないかと思います。

コアジサイ・ヤマアジサイ・ホタルブクロの花が沢沿いに見られ、林縁にはタツナミソウのきれいな水色の花も見ることができました。また、タケニグサやオカトラノオも蕾を膨らませていました。

(松林 幸雄)





簡単なウッドクラフト ⑧

名古屋支部 椿 幹雄

木皮を利用してハンカチを桧皮染し
ぼりにしてみませんか？

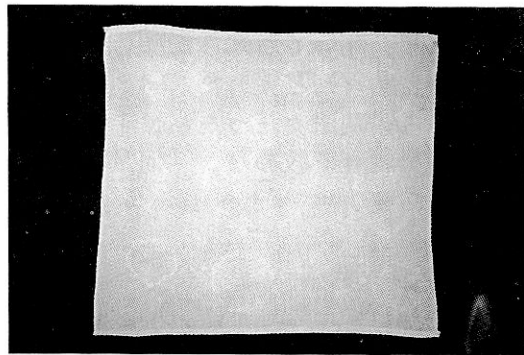
I. 準備品

- 1) ハンカチ
- 2) ハサミ
- 3) 桧皮 (約50グラム)
- 4) 糸
- 5) 酢 (適宜)
- 6) 容器 (鍋など)

II. 作り方

- 1) ハンカチの所々をつまんで糸で丁寧に着いて結わえる。
- 2) 桧皮をハサミで小さく切り、水を浸す程度加えて煮沸させて染色液をつくる。
- 3) 染色液にハンカチを入れて色がつくまで加熱する。
- 4) ハンカチの温度が下がってから水分を絞り、酢を入れて色止めをしたあと、水洗いをする。
- 5) 日陰干しにして、乾いてから糸をほぐす。

III. 桧皮の増減によって茶色系の濃淡を出することができる。桧皮の色をとった後は肥料に使用。



簡単なウッドクラフト ⑨

名古屋支部 椿 幹雄

装飾用の松茸をカンナ屑を利用して
作ってみませんか？

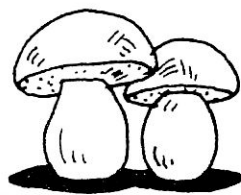
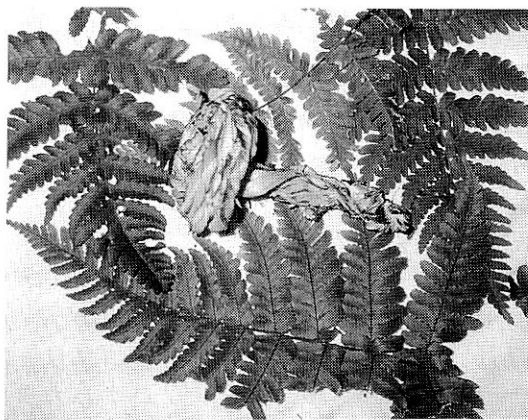
I. 準備品 (1個分)

- 1) カンナ屑 (長さ1m×巾3~4cm)
- 2) 木工ボンド
- 3) 針くぎ
- 4) ガスライター

II. 作り方

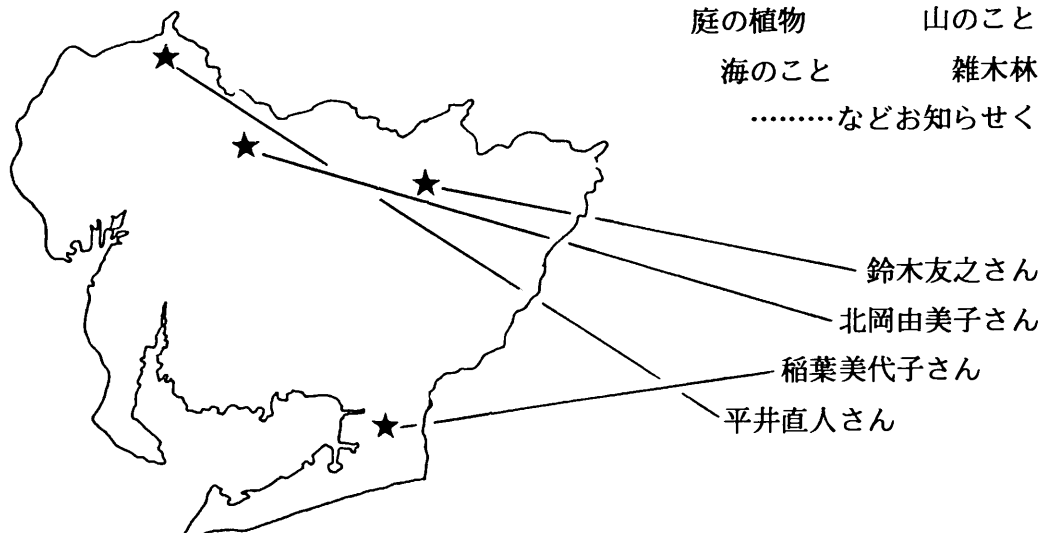
- 1) カンナ屑を50cmの所で2つ折りにして縫。
- 2) 25cmの所で2つ折りにして縫
- 3) 8cm位の所を松茸の軸とする。
- 4) 軸を中心に笠の部分の巻き方は左右どちらからでも。所々にボンドをつけ、巻き終わりの止めは、針くぎを中心に向かって刺す。ボンドが乾いたあと、針は抜いてもそのままでもよい。

III. 箱の中にシダ植物を敷き、その上に出来上がった装飾松茸を置いて離れた所から見ますと、本物と間違ふこともあります。



私の自然

いつもの風景 季節のこと
庭の植物 山のこと
海のこと 雑木林のこと
……などお知らせください。



豊橋市東小浜町 私の散歩道

H5. 6. 1 稲葉 美代子

春の花，黄に始まり紫に・・・私は敢えて白い花を集めてみる。早春から五月末にかけて道端・畠・垣根越しに見つけた花，花。

早春の頃，ナズナ・ハコベ・オランダミミナグサ・タネツケバナ。

三月頃，ハナニラ・カラーダイコンの花・シキミ・ヒュウガミズキ・ハクモクレン・コブシ・ユキヤナギ・アセビ・ヒメウズ。

四月頃，ノミノツツリ・ノミノフスマ・シロツメクサ・ニリンソウ・ハルジオン・ドウダンツツジ・コデマリ・シロヤマブキ。

五月，キイチゴ・ノイバラ・チゴユリ・ホウチャクソウ・ナルコユリ・ノハナハカタカラクサ・ハクチョウゲ・ナンジャモンジャ・ウノハナ・ピラカンタ・トチ・ナンテン・ツゲ・ホタルブクロ・ミツバ・ドクダミ・イタドリ・クチナシ等々，白い花の何と多いこと。

小さな花を集めて一生懸命に咲く花の多いのに改めて驚いた。

今年はじめて出会ったトチの花：円錐花序をなし天を突くばかりに。

テレビでトチの花より蜜を採る蜜蜂の映像：甘い匂いが届きそうだった。

・・・思い出・・・

昔読んだ枕の草子で ----- 見たこともない草を子供たちが持ってきた。・・・「これ、何という草なの」（清少納言），すぐには答えず「さあ」などと顔を見合わせたあげく，「耳無草と言うの」と答える子供が居る。「なるほど，聞いても知らん顔しているはずね」（清少納言）と笑った。・・・（略）・・・その時から興味津々だった私，10年ほど前に緑の国勢調査で教わり，「何？これ！」の思い出がある。



瀬戸市 海上の森 発

北岡 由美子

5年前に瀬戸市山口に引っ越してきて以来、歩いて行ける“海上の森”が「私の自然」となった。その後、21世紀あいち万博の誘致が表面化し、その候補地となり、どうなってしまうのだろうという思いから、さらによく歩くようになった。

こうして海上の森はより身近になり、自分の体の大切な一部分のようになった。

海上の森は、ギフチョウ・ムカシヤンマなどの昆虫類の多さ、サンコウチョウ・フクロウなど70種を超える野鳥の豊かさ、シデコブシ・モンゴリナラなどの東海地方特有の植物の分布等、豊かな自然と水にあふれている。また最近の植物調査では、珍しいムヨウランの仲間が3種類も確認できた。まだまだ自然の豊かさは調べ尽くせない。また海上の里に住み、農業を営む人々も自然の一部。

万博はこれらのすべての生き物の命を奪う。税金で。私たちはこの一切の事に何の責任もないのかと思う。

まだしも、海上の森を「県立自然史博物館」の森として有効に活用したほうがよいのでは、と思う。全国的に見ても、埼玉・千葉・東京・大阪等10都道府県には既にあり、神奈川・滋賀など4県では現在建設中という。愛知県ほどの文化県・経済県にないのは寂しいことである。



“海上の森”を“自然史博物館の森”として後世へ伝えたいと思う。これこそ国連でいワイズ・ユースであり、県内の自然愛好家の役目ではないだろうか。



オニノヤガラ（鬼の矢柄）：海上の森にて



**** 訂正 ****

その1 協議会ニュース44号、8ページ、稲葉さんの「私の散歩道」の最後の行の次に、私はかなり大きくなるまでこの草をナナクサと思っていた。を加えてください。……フロップイディスクの文章を点検して発見！

その2 協議会ニュース45号、9ページ、稲葉さんの「私の散歩道」の犬伴家持の歌を入力ミスで間違えました。正しくは、「もののふの八十をとめらが汲みまがう寺井の上のカタカゴの花」でした。

……おわびして訂正させていただきます。……

善師野にて

平井 直人

3年前の7月も善師野で観察会がありました。その時も夏の昆虫たちの生活をのぞいて見ようというテーマでした。そして途中でコースを変えて化石観察へ向かっています。しかし、雨が降り出して解散宣言。ところが、帰りがけに小雨となり、サンコウチョウを見に北洞池へ行こう！ということになったようです。結果は空振りの三振。（しかし観察にかける執念はさすがですよ。）ちなみに私はその時いたのかいなかったのか、さっぱり思い出せません。いやはや、3年前が遙か昔に感じられます。

さて、話は3年後1993年7月に戻ります。テーマは同じく夏の虫たちの観察です。なかでもハチそっくりなカミキリムシ（しかし、その名はトラフカミキリ！）が桑畑にいと聞いてワクワク、ウキウキ。その前にまたまた同じくコースを変えて化石観察へ。ここでまた私の回想録を・・・

大学時代に化石や岩石の好きな友だちとよくあちこちへ行きました。善師野へも、メタセコイヤの化石や珪化木で有名だったので、連れて行ってもらいました。連れて行ってもらったといっても、私も本人も

自力です。バカバカしい話ですが、自転車で行了きました。名古屋からただひたすらシヤカシヤカペダルをこぎました。（今想えば、大学生にもなってよくまあそんなんで行ったなあと思います。そんなにお金がかかったんですかねえ。）そして、その結果は、バッチリ大量に採れました。うれしいもんだからどんどんデイパックに詰め込みます。当然帰りは死にそうです。汗びっしょりになって帰って来ました。ハンカチで顔を拭いたらびっくり。まっくろけ！

あたり前ですよ。41号線をひたすらこいだんですから。2人で大笑いです。

そんな訳で今回は化石を見るだけで十分満足でした。その後は、いよいよトラフカミキリ登場となるのですが、残念ながら一匹も姿を見ることはできませんでした。桑の大害虫ということなので防除されてしまったのでは、という北岡さんの話でした。

残念でしたが、帰りにクスサンとヤママユガの幼虫をじっくりと観察することができ、大感激でした。（ヤママユガの幼虫が力んで糞をする姿もじっくり観察！）

（尾張支部・支部通信8月号から）

＜新刊のご案内＞

アマチュア森林学のすすめ

—ブナの森への招待—

西口親雄著

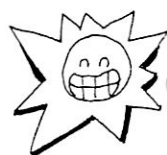
定価2000円

ブナの森に息づく生物の姿をとおして、森という宇宙のメカニズムを探る。自然保護を考えるナチュラルリストのための好著。

四六判・224頁（カラー8頁）



八坂書房 〒101 東京都千代田区猿樂町1-5-3-201
●目録進呈 ☎03(3293)7975 FAX. 03(3293)7977



哀れなモリアオガエル（設楽町）

H. 5. 7. 14

鈴木 友之

黒田ダム水源域の駒ヶ原高原，ある調査のため訪れることが多い。数年来気になっていたことが現実となり，空しい帰路となった。

高冷地でのモリアオガエルの産卵は，梅雨入り頃より始まる。今年は6月5日には見られなかった卵塊が，13日に2個，17日に10個，7月4日には10数個となり，一部は孵化して育った幼生の落下も間近にみえた。

15日，天気回復を待って立ち寄ってみた。卵塊の大部分は崩れ去り，幼生の落下が終わろうとしていた。……ここまでは自然の一現象として過ぎるのですが，残念ながら，現場の実情を知って頂きたく書き添えます。……

産卵は丈の低い，コナラ等の枝先に見られ，下には直径3m程の小さな池がある。この池



が問題で，数年来荒れ果てて，空き缶などの捨て場と化し，一昨年には缶のすき間を泳ぐオタマジャクシが見られた。昨年は雨不足で，落下しても水が無く，8月には幼生の死臭が漂っていた。

“今年はどうか”春に現場を見てビックリ，沼は姿を消していた。土砂で完全に埋められていた。5月20日には前回同様であり，今年は親蛙も産卵をあきらめたものと思っていた。久しぶりに訪れたのが，前記の6月13日であった。

モリアオガエルよ，おまえたちは先を見る目がないのか，何等施すすべもなく，暗い気持ちで家路についた。

その後も通る度に立ち寄るも，2ヶ年続いで全滅した現実を知ったのみに終わった。

☆ 出版物の紹介

「バードウォッチングガイド」東海編

日本野鳥の会愛知県支部編

かねてから身近な野鳥観察のガイドとなる適当な本が待望されていたが，「バードウォッチングガイド」東海編が，この7月七賢出版（名古屋）より発行された。

執筆は，日本野鳥の会愛知県支部を中心に，各地で探鳥会などに関わるベテランのリーダーが分担。定価1500円で，カラー16ページからの56種の野鳥写真はすばらしい。名古屋・尾張・三河・岐阜・三重の探鳥地35カ所の様子が紹介されている。写真も豊富で，わかりやすい手書きの地図と共に，近くの名所などの紹介など，日頃活字に飽きた人にも読ませる編集方針はいい。探鳥地の説明は同じようになりがちだが，執筆者が異なり，それぞれ個性豊かな読みごたえがある中味で，しかも読み易い。

鳥は花とは違ってそこへ行けばいつも見れるものでもない。早朝で，しかも季節が限られ，なかなか珍しいのには会えない点，本を頼りに出かけても見つけるのは難しい。

私も探鳥会をおこなっている鈴鹿の藤原岳の紹介を書くことになり恐縮している。藤原岳は，山野草の宝庫としてはすばらしい所と思っているだけで詳しいわけではない。野鳥は春秋に見聞きしたものに限ったが，早朝とか他の季節だとまだ増えよう。（ミスの訂正：イチリンソウの色を黄としたのは間違いで白）

これを機会に野鳥・自然に親しむ仲間が増えるよう期待したい。

自然観察の仲間 朱雀英八郎

正文館・三洋堂などにありますが，2冊以上でしたら送料負担で送ります。連絡は下記まで

[〒462 名古屋市北区西志賀町1-2 朱雀英八郎]

協議会活動に思う、その一

昨年一年間協議会の普及部会と運営部会に籍をおいて協議会のお手伝いをさせていただいて、私の感じたことを少し書かせていただきます。協議会も発足いらい10数年の月日が過ぎました。最初の数年間はおそらくどのように運営したら良いのか、またどのような方向に進むべきか、など色々な問題の山積する中で、会長をはじめ役員の方々の御苦労は大変なものであったと思います。然しそれらの努力と活躍のお蔭で今の協議会の組織と支部活動のしっかりした活動の基礎が作られたと思います。

最初は会員数も50人足らずであったのが現在は400人に近づいている現状です。会報の発送とか、会員への連絡などの事務の労力も大変な量になって来ています。

然しそれらに対応する組織がついてゆきません。これらの問題は普及部、運営部などの活動にも支障が現れて来ています、部会の意見が組織の末端まで届かない、各支部や会員の意見が部会に反映されない、などの問題が現れて来ています。普及部会長の山田博一さん運営部会長の佐藤国彦さん、二人とも献身的とも言える努力をされていますがなかなか良い結果が現れてきません。この問題は個人の努力では解決出来るものではなく、組織の問題と会員個々の意識の問題が原因であると思われるからです。それでは組織と会員の意識の問題とはどのような問題かと言いますと、まず組織の問題ですが、今の組織は会を作りあげてゆく

名古屋支部 篠田陽作

時の組織として作られていて、現在のよ
うに会員数が増えた状態では役員に負担
がかかりすぎます。さて次に会員の意識
の問題ですが、この問題が今一番大切な
気がします。今までは役員の方々が献身
的に運営をして下さっていたのを、いい
ことに、我々会員はああして欲しい、
とか、こうして欲しいとか、注文を出す
だけで、運営に参加しようとはせずに、
何かをして貰うことだけを考えていたよ
うな気がします。かってケネディがその
大統領就任式の演説の中で[アメリカ
合衆国が諸君に何をしてくれるかではな
く、今諸君が合衆国の為に何が出来るか
今何をすべきかを考える時である。]
今協議会に必要なのもこの言葉なのです
協議会が何をしてくれるかではなく、
協議会の為に何が出来るか、何をすべき
か？を考えて協議会の運営にご協力をお
願いします。



1. はじめに

この10年の周囲の情勢の変化は大きい。自然保護思想は定着した。私たちの活動の成果ともいえるが、これから何をすべきか。今までどおりの「自然保護入門案内」でよいのか？10周年を節目に今後の観察会の在り方を見直し、方針を立てる。

2. 観察会の在り方

- (1) この10年やってきたことは基本的に正しい。京都連絡会方式をさらに積み重ねを
- (2) 今後営利目的の観察会に対してそれとは違う観察会を
- (3) 専門家集団ではない、素人でないとできないような主張を
- (4) サロンの雰囲気、浅く広くの魅力
- (5) 子供だけでなく大人に対しても自然体験の場を
- (6) 大人も子供も楽しくないと来ない。
- (7) 下見の楽しさを本番へ
- (8) 一定の場所に止まってじっくり観察、作業したりしたい。
- (9) スタッフを多様に、一部の人に負担がかかりすぎをさけるために
- (10) 子供連れでスタッフとして参加したい
- (11) 観察会の参加者人数の適正を考えると、50人は多いのではないか。



3. 指導員として

- (1) 観察会に自分が関わることで、そこで認められること
- (2) 参加して自分自身が楽しむことが大切
- (3) 指導員の基本は自然に対する気持ち、それをどう伝えられるか
- (4) 観察会に参加して感性をみがいていくこと。
- (5) 観察会で得たもの一生懸命の素晴らしさを皆に伝えたい
- (6) 解説だけでなく、説明を一方的にするのではなく一緒にキノコを探す、どこにどんなふうにあったか話してもらう
- (7) 会の活動と自分の活動とのかねあいがむづかしい
- (8) 環境に対する責任を感じながら暮らしている。
- (9) 自然と人との共存する道を計るのがいま求められる時代
- (10) 環境保護と実生活のバランス
- (11) 子供に孫に自然を残してやりたい。



4. 自然保護について

- (1) 自然保護が市民権を持ったが果たして良い方向にいつているか
- (2) 行政が環境破壊の一方で保護活動を？
- (3) 保護について、行政とのかねあいを考慮しながらでも保護を一般の人に訴えていく
- (4) 地域の住民運動への理解と認識を

5. 今後に向けて

- (1) これからの私たちの仕事は身近な環境が自然がどう変わってきたかをとらえること
- (2) 個々の地域については調査が進んだが、京都全体の環境がよくわからない

- (3) 京都全体の自然度チェック
- (4) 全市的な取り組みとして酸性雨の調査はどうか
- (5) 深泥池観察会、PTAなど地域の活動交流を
- (6) いわゆる「山の家」等の利用について考えたい。作った自然が多すぎる。

☆

☆

森の新聞 第53号 '93.05

自然観察指導員京都連絡会通信

(京都連絡会の機関誌から)

「豊田市自然観察の森」からの便り

多くの哺乳動物がいる豊かな「森」

尾張支部 長尾 智

6月3日の午前10時45分、「バッタの原っぱ」でタヌキに出会いました。タヌキとの距離は10mほどでした。タヌキを野外で見るのは初めてで、それも突然だったので、驚いて見詰めていると、タヌキの方もこちらに顔を向けて立ち止まって（「バッタの原っぱ」にいました。現われたタヌキ）

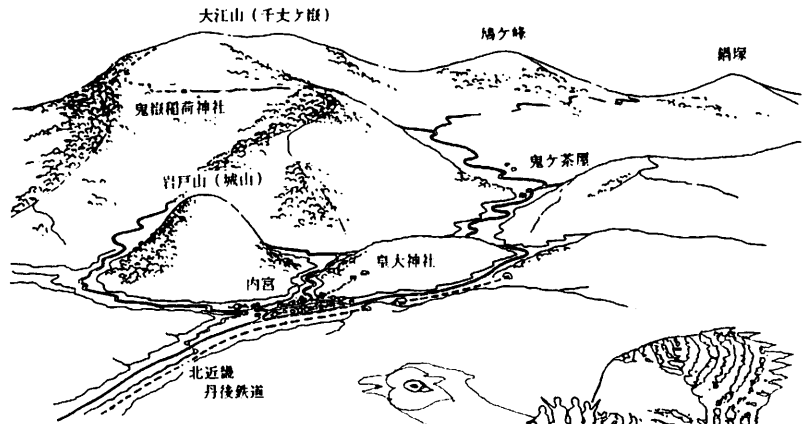


落ち着きを取り戻し、カメラをバッグから出して撮影しました。タヌキはそれにも脅えた様子はなく、のんびりと歩いて離れていこうとしました。後を追っていくと、樹木の茂みからもう1頭現われました。そちらの方は、私の姿を見ると一目散に茂みの中に走り込みました。前のタヌキもそれに続いて姿を消しました。

5月9日には、当園のすぐ西側の外環状道路で、交通事故にあったハクビシンが見つかりました。「シダの谷」から飛び出したところをはねられたものと思われます。

下記の表に、記録された哺乳動物を示します。

種 名	記 録 内 容
タヌキ	姿を目撃
ハクビシン	姿を目撃(轢死体)・糞
ムササビ	姿を目撃・糞・食痕・皮剥ぎ
リス	姿を目撃・食痕
ノウサギ	糞・食痕
アカネズミ	姿を目撃・巣穴
ヒメネズミ	姿を目撃・巣穴
カヤネズミ	姿を目撃・巣
モグラ	坑道
ヒミズ	姿を目撃



BIRD'S EYE VIEW

岩戸山

大江山は鬼の伝説で有名です。この大江山から流れ出る宮川に沿って天岩戸神社、皇大神社（元伊勢内宮）があります。岩戸山は天岩戸神社の境内林で、御神体として大切にされてきました。この辺りは植物生態学的には暖帯から温帯の植物が入混じり、貴重な存在となっています。



鷲峰山



鷲峰山には役小角の開基と伝えられる金胎寺があり、大和の大峰山と並称される修験者の行場があります。その昔、「太平記」によると後醍醐天皇が笠置に向かう前に一時身を寄せたといわれています。金胎寺を中心に古くから自然が残されており、行場には奇岩怪石と共にアカマツ林、落葉広葉樹林が自然の状態を良く保っています。

BIRD'S EYE VIEW

鷲峰山

京都連絡会の機関誌から

猪高緑地便り

1993 / 5 / 22
(土曜日)

東海自然観察研究会

(仮称)

編集人：鈴木 武
名古屋市南区西桜町
85 メイツ桜台506
電話 052-821-6794

一期一会

堀田 守

13:30 :

[次回の予定]



[4月25日(日)の記録]

「本年度3回目の観察会」

曇り後晴れ、北西の風強し

参加者：大人子供合わせて約60名

指導員：朱雀、布目、堀田、篠田、

自然観察のコース：社教センター前より「池を左回り」

大人組と子供組に別れて春の林内を散策した。
春風が吹きすさんでいた。

「コナラ」僅かに新芽が出るとともに、雄花、雌花がみられた。

「ミツバアケビ」「コバノミツバツツジ」

「ガマズミ」の花が咲いている。

Bコースでは「レンゲソウ」ハハコグサ」

「タネツケバナ」の花が咲き「ガマ」の新芽が出ていた。

展望台の登る坂には「フモトスミレ」の花が見られた。

塚の杵池の浮遊物は南西側に吹き寄せられているが浮遊物は落葉の間に花粉(コナラ)がおおく見られる。またその間にフクロワムシ、ミジンコおよびゾウリムシが多数みられた。これも春の水の中の生態系と感じられた

「一期一会」という言葉があります。生涯にただ一度まみえることを表現した言葉だそうですが、うまく表現した言葉だと思います。

自然とのかかわりを考えたことがありますか? 日常生活の中で自然等どうでもいいと思っている人もいるかもしれませんが、それでは、あまりにも寂しくないでしょうか?

毎日の生活に追われ忘れがちになっている自然との出会い、現在の生活が豊かになり自然とは、無縁とでも思っているのでしょうか? ものの豊かさをいかに享受できても自然を思う心(心の豊かさ)を持てなければそれは不幸なことではないでしょうか?

心に残る風景を語るとき何年も前にいつた旅先でふと見た風景が思いだされることを体験したことはありませんか?

いつも見ている身近な風景が、ある時、ある日、突然違った風景に見えたことはありませんか?

ものの豊かさも結構ですが、自然とのかかわり結び付きを大事にし、そして喜びとしたいものです。四季の移ろいは、気候の変化を暗黙のうちにしらせているのです。そして、我々も暗黙のうちに、うまれ育つた環境の中でそれを感じとっているのです。

自然との対話は「一期一会」なのです。

「見落としている自然社会」

←池の上に浮かんだ落葉の中にも動物、植物および微生物による食物連鎖があるように地面に上の落葉層その下の土の中にも様々な生態系があります。本日はその観察をする予定です。

湿地研だより

1993.06.01発行（毎月1回）

名古屋湿地研究会

0564-21-4405 武田 篤

052-834-2094 鈴木 晃子

〈例会報告〉

第17回「守山区吉根・大森長廻間」5月23日（第4日曜）

参加者 篠田、鈴木、武田、上山、越湖、坂、垣見、塚本 以上8名
吉根寺池一周辺のサンショウウオ産卵場所などすべて区画整理区域、池自体も沈澱池及び調整池として使われるようだ。アカメヤナギ群生あり。その他は、道路封鎖中で入らず。

大森長廻間

参考地－オオイヌノハナヒゲ、ヒメゴウソ？、アリノトウグサ、近くにマメナシ若木、ズミあり。

参考地－ハルリンドウ、ノリウツギ、ノギラン

参考地（鞍部の樹林下）－ヌマガヤ、オオミズゴケ

湿地守17－ため池水抜け形、ヌマガヤ草原。

スイラン、ホソバミズゴケ？、サワギキョウ、ヌマトラノオ、ノリウツギイヌツゲ、ヤチカワズスゲ、ゴウソ、ズミ、サワシロギク、モウセンゴケ

*今回は、まったく地図だけで湿地があると見当をつけて探しました。

月例大森湿地観察第1回、5月9日（例外的に第2日曜）

参加者 塚本、岡崎、垣見、加藤、上山、武田 以上6名

〈湿地研・武田に対する行政等の対応について〉

以前には、いきなり人の職場に電話してきて、「調べさせてもらいました。」と、「行政に盾つく非国民を見つけ出した。」と言わんばかりの事務屋さんもみえました。しかし、最近は、市長さんの指導力か、名古屋市の各部局とも非常にリベラルな対応をしてくれて、感心しています。

特に、農政緑地局さんのほうでは、各課ともいろいろ考えてみえるようで、問い合わせをいただいたり、「花・水・緑の市民フォーラム」のリーフレットにも、湿地研の展示風景まで掲載しております。それに比べると、環境保全局さんのほうは、動きが鈍いようです。総務局や土木局など、思いもかけない部局・担当者からも、資料がほしい旨の連絡をいただき、「名古屋湿地目録」や「藤前干潟生物調査報告」などを差し上げております。

国際センター関係では、NICで聞いたという外人さんからの問い合わせがあったため、わざわざ英語版の観察会情報を印刷して持参したのですが、掲示だけと断られました。以前は、藤前のパートワーカーが仆さえ、置いてくれたのですが。

LETTERS ON NATURE



なんじゃもんじゃ通信

名古屋支部長 浅井 聡 司

TEL 052-703-9482

OMBOWの眩き 五月は緑、手のひらで太陽の光を受けとめてみる。日差しの暖かさをを感じる。葉々もこんな感じで太陽の光を受けとめているのだろうか。そんな気持ちになってみた。雨上りの風そよぐ日であった。枯れ木の先には、翅をつけたシロアリが群がり、結婚飛行に飛び立とうとしている。枯れ木が生命を宿し、生まれくる生命の営みを目のあたりにした。ハネアリの翅は四枚、重ねられた翅はゴキブリの翅と類似している。翅をバラバラに動かし、やっとの思いで飛びたってゆく。

活動報告

5/9 第5回大高緑地自然観察会 指導員 篠田・近藤・岩崎・石原・鬼頭・柳 参加者 5名

風薫る5月です。あいにくの曇天でしたが適度の薫風の中を快適な観察会が実施できました。今回は特に花の咲く樹木を中心に緑地の林の中を散策しました。

①前回ではみごとな花を観察できた桜も、いまではサクランボになっています。「シラカシ・アカマツ」の花は参加者の多くが間近で観察したことがなく、とくに松の赤い雌花がマツボックリのミニチュアであることに感心していました。

②低木では、「マユミ、サワフタギ、ツクバネウツギ、アキグミ」などの花がきれいでした。「サワフタギ」には正体不明の毛虫が大発生しており、ほとんどの葉が食い荒らされていました。

③楽しみにしていた「ツルグミ」がまったくみあたりません。おそらく鳥に食べられてしまったものと考えられます。冬から春にかけて去年の木の実がなくなり、かつ今年の草の種もまだできてない時期ですから、鳥たちも必死です。

④今回の観察会では、満開の「コモウセンゴケ」を楽しみにしていたのですが、今年は特に気候が不順なこともあってか、ピンクの花はたった2つしか見るできませんでした。でも、力強く成長した株をみると、まだまだここも捨てたものではないなという気持ちが出てきました。

(岩崎昇一)

5/9 第1回大森湿地自然観察会 参加者 塚本・岡崎・垣見・加藤・上山・武田

5/23 第17回湿地研 参加者 篠田・鈴木アキコ・武田・上山・越前・坂・垣見・塚本

守山区吉根：吉根寺池周辺のサンショウウオ産卵場所などすべて区画整理区域内、池自体も沈殿池および調整池としてつかわれるようだ。アカメヤナギ群生あり。その他、道路封鎖中で入らず／

大森長廻間：参考地1－オオイヌハヒゲ・ヒメウリ？・アリトウサ・近くにマメナ若木、スミ

参考地2－ハリソドリ・ノリウツギ・バラン

参考地3(鞍部の樹林下)－マメナ・オハミツカ

湿地守17－溜め池水抜け形、マメナ湿原 スイラン・ホトバシカ？・ササキョウ・マツリナオ
・ノリウツギ・イヌツギ・ヤチカサガ・コウリ・ズミ・ササシギク・モリセンカ



★ 藤原岳の山小屋の横で元気いっぱいの記念撮影（H 5 . 6 . 1 2）★



☆編集後記☆



★ 長い梅雨が明けたはずなのに、太平洋高気圧の勢力が弱く、南から湿った空気が流れ込んでくることもあり、気温のあまり上がらないはつきりしない日が続いています。

★ 協議会ニュースのほうは、前回同様、発行が遅れ、ご心配をおかけしております。やっとできました。仕事の合間を縫っては集中的にやるようにしていましたが、今回は先がなかなか見えませんでした。この冊子の中味の情報が「手遅れ！それは昔のこと！」という分については、事情をお察しの上、御理解くださいますようお願いいたします。

★ 4カ月ほど前の朝日新聞に、ボランティアについての記事が載っていました。その中で基本理念の一つの考え方として、①自発性・自立性 ②無償性 ③公共性 ④先駆性 の4つがあがっていました。これは新聞では1個人の意見として出ていたものですが、私はこのあたりの部分の記事を切りとって、パソコンの画面の近くに置いて仕事をしています。

★ 「私の自然」，「活動のようす」，「出版物の情報」など、どしどしお送りください。みなさんの考えがいっぱい反映された協議会ニュースができれば、と思っています。次回の発行は9月です。8月の25日頃までをお願いします。

★原稿送付先

編集部会 〒491-02 一宮市奥町内込47-4 伏屋光信 ☎0586-61-4132



8月～9月の行事案内

★他支部の行事にも参加できますが、急な変更があるかも知れませんので照会の上、ご参加ください。

①主催 ②集合場所・時間 ③照会先 ④行事のテーマ・内容 ⑤参加費用 ⑥備考

「8月8日(日)月例観察会」

- ①尾張支部 ②JR高山線上麻生駅前
- ③平井直人 ☎052-502-1020
- ④七宗国有林本谷の溪谷植物(ワサヅシ等)と水遊び!



「8月15日(日)東山八事観察会」

- ①東山自然観察会
- ②東山植物園ロータリー南9:30
- ③鈴木晃子 ☎052-834-2094
- ④静かな雑木林, 変化に富んだ地形, 池, 湿地などが見られる観察ルート
- ⑥毎月第三日曜日

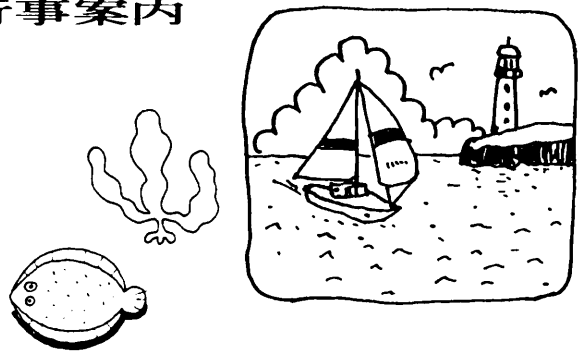
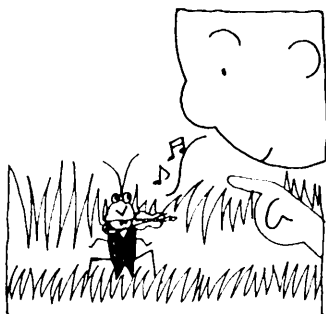
「9月5日(日)善師野観察会」

- ①尾張支部 ②名鉄善師野駅9:00
- ③平井直人 ☎052-502-1020
- ④今年こそさがそう!

メタセコイアの化石

「9月11・12日(土・日)自然観察会」

- ①自然の学校 ②南知多グリーンバレイ
- ③相地 満 ☎052-671-4598
- ④「初秋の鳴く虫の観察会」「夜, 簡単な草木染め」
- ⑥一泊研修



「9月12日(日)大高緑地公園自然観察会」

- ①大高緑地公園自然観察会
- ②大高緑地琵琶池ボート乗り場9:30
- ③石原洋一 ☎052-624-1998

「9月15日(水)猪高緑地自然観察会」

- ①名古屋支部 ②猪高緑地9:30
- ③布目 均 ☎052-771-0396
- ④秋の観察会

「9月17日(金)虫の音の観賞会」

- ①知多自然観察会
- ②阿久比町中央公民館18:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④灯火に集まる虫を調べたり, 鳴く虫の音を聞く。

「9月19日(日)東山八事観察会」

- ①東山自然観察会
- ②東山植物園ロータリー南9:30
- ③鈴木晃子 ☎052-834-2094

「9月19日(日)身近な人里で自然観察会」

- ①東浦自然観察会
- ②東浦町文化センター9:30
- ③降幡光宏 ☎0562-55-6855



「9月26日(日)檜原公園観察会」

- ①知多自然観察会 ②常滑市檜原公園9:00
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④緑の少年団交流自然観察会の下見研修とキノコの観察